

今はこんな様子だよ。



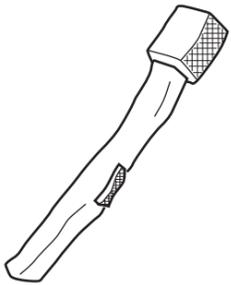
工事の げんば 現場より

7月2週目

げっかてん ひわだぶきやね ふきか さぎょう はじ のきさき のきづ よ ぶぶん ひわだ
月華殿の檜皮葺屋根の葺き替え作業が始まりました。軒先の「軒付け」と呼ばれる部分は、檜皮
を厚く積み重ねてきれいに切り揃えて作られます。この部分は下からの見た目をよくするために厚
く積み重ねられた化粧部分（厚さ約12cm）なので、表面に見えている実際の屋根部分とは別の材料で、
また屋根の厚み（約10cm）とは対応していません。

のきづ より上、実際の屋根部分は檜の皮を少しずつずらして並べて、竹くぎで止めて作られます。
げんばない 現場内には、リズムカルに竹くぎを打つ小気味よい音が響いています。

かなづち



竹くぎを叩き打つ時
に使用します。竹くぎ
と一緒に握りこんで
使うので、柄の形は
使う人により様々。
使い勝手が良いよう
に、一般に柄は自作
するそうです。

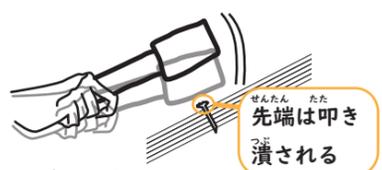
竹くぎの打ち方



①口に含んだ竹くぎ
を、尖っている方を
うちがわ
内側にして一本ずつ
口から出します。

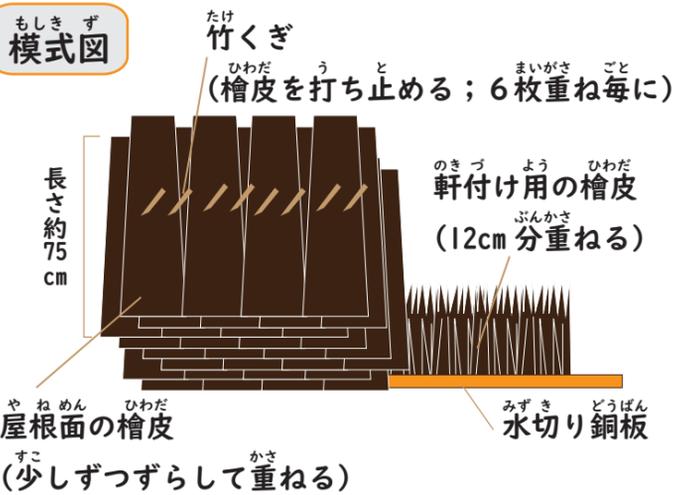


②口から出したくぎを、
かなづちの柄と一緒に握
りこみ、柄の途中の金具
を使って押し込みます。



③押し込んだ竹くぎを、
かなづちの上の部分で
「トントン」と叩いて打
ち付けます。

もしきず 模式図



みずき どうばん やくわり 水切り銅板の役割

屋根表面を伝った雨水を、軒付けに回さず下に落とす。軒付けは濡れると早く劣化するため、なるべく濡らさないほうが良い。



のきづ 軒付けはきれいに切り揃えられ、見栄えがするよう仕上げられました。